

BTCC “**新規口座開設限定**”

BTCC口座開設&入金で、最大**17500USDT**が獲得できる。
お友達を紹介するとさらにボーナスをプレゼント!

今すぐ口座開設/詳細はこちら



CT Analysis、「2022年4月度版 DeFi市場レポート」を無料公開

原文:

<https://www.btcc.com/ja-JP/academy/research-analysis/ct-analysis-releases-free-april-2022-defi-market-report>

近頃頻繁に耳にするようになった「[DeFi（分散型金融）](#)」ですが、最近のDeFi市場について詳しく見たい方は決して少なくなりません。そこで、今回はCT Analysisによる「2022年4月度版 DeFi市場レポート」を無料公開! ぜひ、最後まで見逃さずご注目ください!

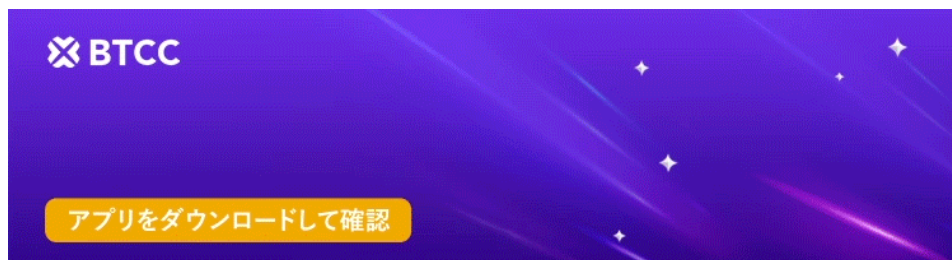


CT Analysis、「2022年4月度版 DeFi市場レポート」

CT Analysisは6日、2021年9月より配信開始のDeFi（分散型金融）の市況や主要プロジェクトの動向などを手軽に確認するため、「2022年4月度版 DeFi市場レポート」を作成して無料公開しました。

「2022年4月度版 DeFi市場レポート」はデータを中心とした振り返り、考察がメインとなっており3~5分

程度で読める内容となっています。



[Google Playで手に入れよう](#)

[App Storeからダウンロード](#)

[日本ユーザー様限定特典（10,055USDTギフトパック）<<<<](#)

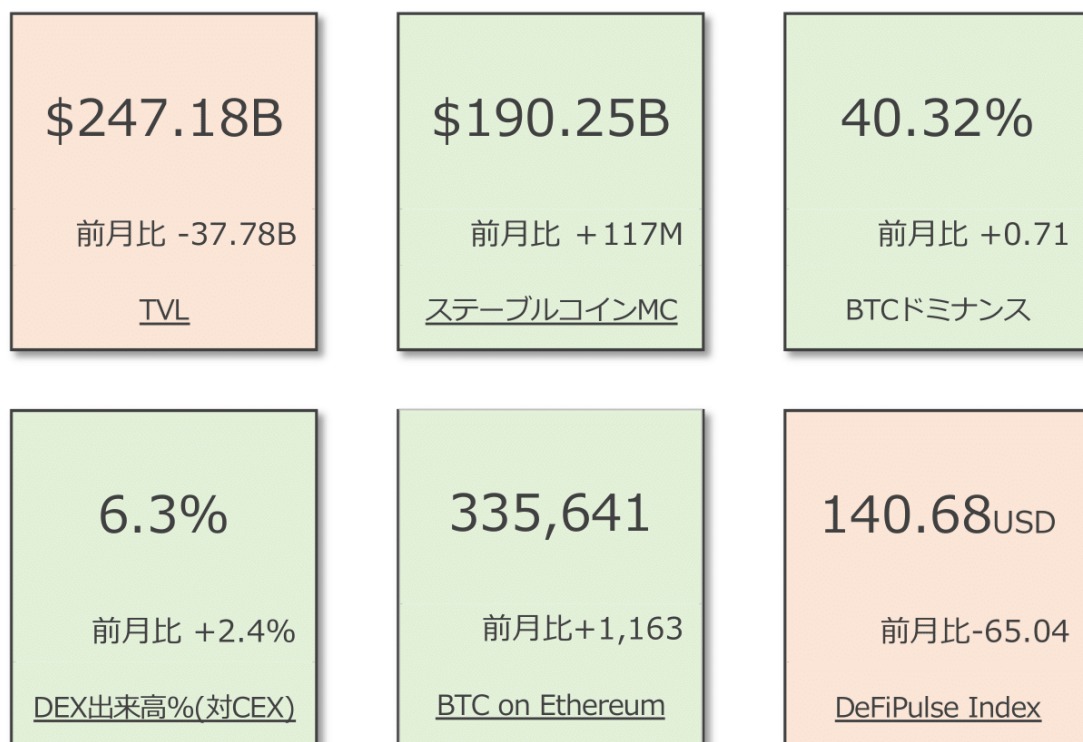
4月DeFiの市況と主要な指標について

4月の市況と主要な指標

■ 主要データの定点観測

DeFi全体のTVLは、\$247.18Bとなり、先月末と比較して13%以上落ち込む展開となりました。全体的にアルトコインからの資金抜けが続いていることがTVLにも影響しています。ステーブルコインの時価総額はほぼ横ばいとなり、発行のペースも一段落しています。BTCのドミナンスは今年に入り40%前後を横ばいで推移しています。月末時点でのDEXの出来高は6.3%と直近では高めの水準となっており、オフチェーンでの取引よりオンチェーンでの取引活動がやや活発であったことがわかります。

ステーブルコイン周辺では、Near, TronなどのネットワークがTerraのUSTのロールモデルとし、ネットワークのネイティブトークンを利用したアルゴリズム型ステーブルコインを発表しています。



主要指標の定点観測

4月末時点での、主要L1ネットワークのDeFiのTVLは\$247Bとなり、3月末と比較して約13%となる-\$37Bとなりました。

先月まで右肩上がりで増加していたステーブルコインの時価総額も、USDCを中心に減少、全体ではほぼ横ばいとなり、DeFiにとっても4月は厳しい1ヶ月となりました。



[Google Playで手に入れよう](#)

[App Storeからダウンロード](#)

[日本ユーザー様限定特典（10,055USDTギフトパック）<<<<](#)

今月DeFi市場のトピック

今月のトピック (1) ERC-4626

■ Yearnが債権トークンの効率化を狙う

Yearn Financeが4月6日に発表した、債権トークンの標準規格であるERC4626に関して注目が集まっています。ERC4626自体は、以前より議論が進められていましたが、Yearnのv3ではこの規格を利用して更なるイーサの効率化を目指すポジションを獲得しようとしています。

ERC4626は、原資産の運用を自動化するポルト系のプロダクトや、AaveなどにUSDCを預けることで獲得できるaUSDC, CompoundのcUSDCなど、イーサ付きトークン向けのトークン規格です。Uniswap等のAMMに流動性を提供することで獲得できるLPトークンなども利回り付きトークンに含まれ、基本的にはDeFiの原資産の運用を行うプロダクトはほとんどがこの規格に当てはまると考えても問題ないでしょう。

これまで、イーサ付きトークンというのは、プロダクトごとに実装が異なり、高いコンポーザビリティを持つ設計とは言えませんでした。ERC4626は、ここの実装をLPトークンやレンディングへのデポジットなど、種類を問わず統一化するための標準規格となります。

3月18日時点でのERC4626の[対応プロジェクト](#)は以下のようになっており、主要なプロトコルも既に対応を決定しています。

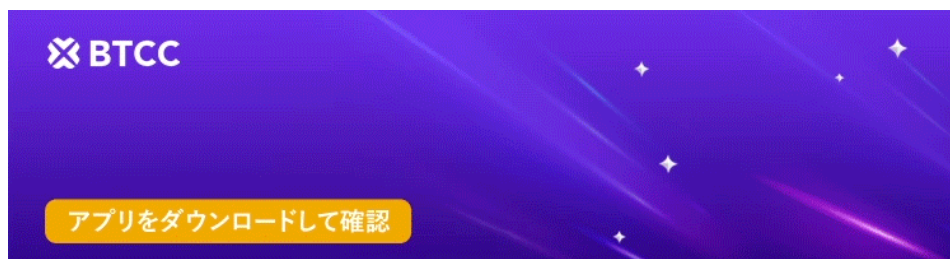
- Balancer ([@BalancerLabs](#))
- MapleFinance ([@maplefinance](#))
- Alchemix v2 ([@AlchemixFi](#))
- Tribe Turbo ([@feiprotocol](#))
- Yield Protocol ([@yield](#))

ERC4626が普及することで、アプリケーションを横断して同一の規格で残高を管理できるようになるため、これまで以上に高いコンポーザビリティや利回りの最適化を目指すことができるようになるでしょう。同時に、これまで分断されていた同一アセットに対する異なる利回りもより最適化が進むと考えられます。ERC4626のみをパーミッションレスに扱う仕組みなどの登場も期待できるのではないのでしょうか。



Yearnを中心として、利回り付きトークンをERC-4626として標準化を試みる動きが進められています。

LPやレンディングのデポジット、ポータルへの預け入れなど、この辺りのトークン規格が統一化されることで、ユーザーにとっても利回りの改善などのUX向上につながる可能性があり、4月の中では興味深いトピックの一つでした。



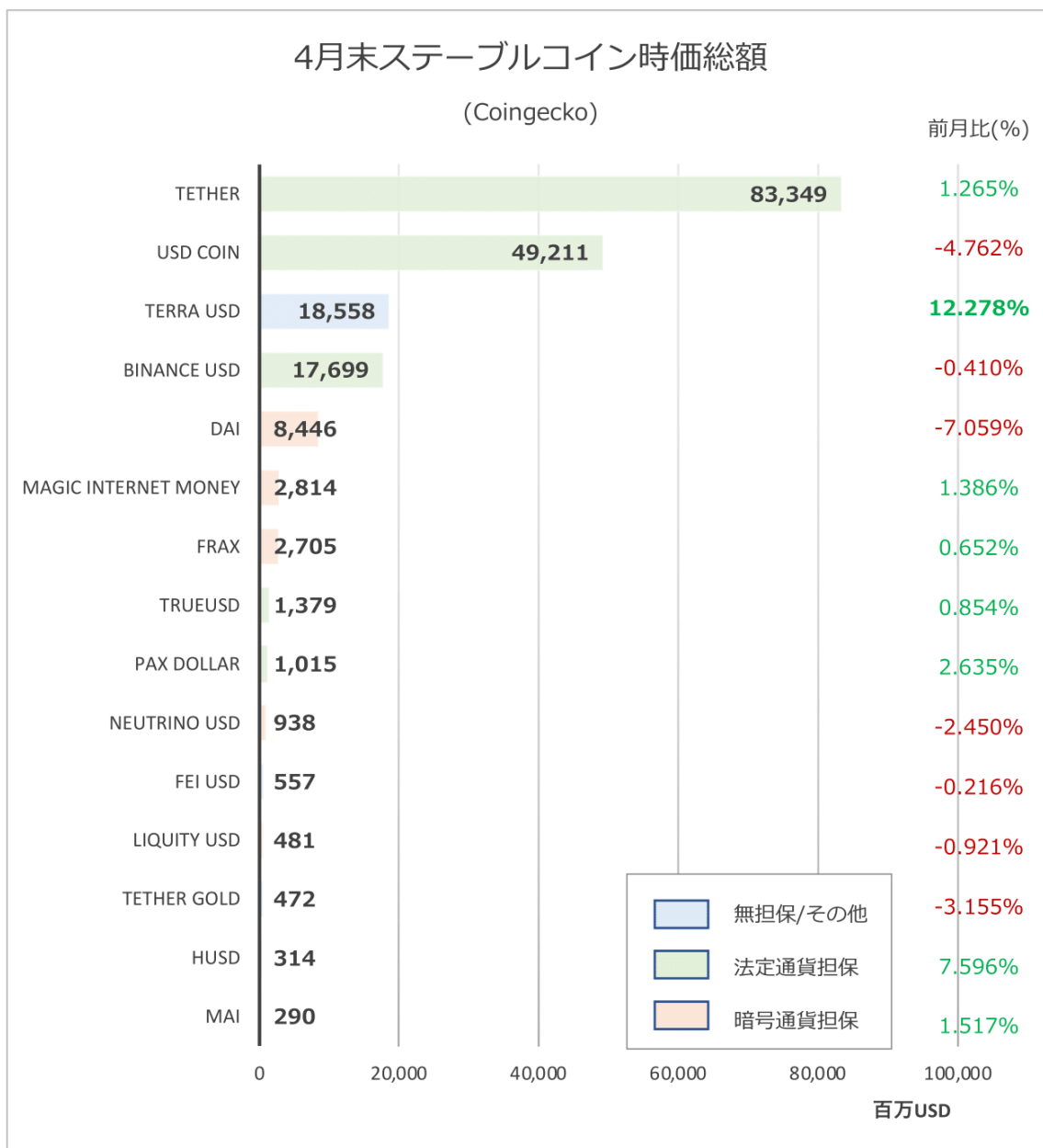
[Google Playで手に入れよう](#)

[App Storeからダウンロード](#)

[日本ユーザー様限定特典（10,055USDTギフトパック）<<<<](#)

ステーブルコインの時価総額ランキング

ステーブルコイン時価総額トップ15



4月は、TerraのUSTが全体で3番目に大きな時価総額の法定通貨担保型のステーブルコイン\$BUSDを抜き、アルゴリズム型のステーブルとしては初めて3番目に大きな時価総額となっています。USDCは4月には大きく発行枚数を減らし、\$50Bをわずかに下回る水準となっています。Terra以外に2桁の時価総額増加は観測できず、資金が抜け気味な市場で高い利回りにより市場を牽引していることがわかります。



先月に引き続きTerraのUSTが続伸しており、法定通貨担保の[ステーブルコイン](#)であるBinance USDを抜き、全体で3番目の発行枚数となっています。

この規模になってくると、[Terra](#)やAnchorの市場全体に対する重要度も非常に高くなります。

レポートではこの他にもDeFiの主要なマーケット、プロダクトの動向、レイヤー2やマルチチェーンの動きなども含めて解説しています。

該当リサーチレポートに興味を持つ方は、下記のサイトより会員登録してダウンロードしてください。

[CT Analysis](#)